

MEITEC IR REPORT 2010

IRレポート [第37期 第2四半期累計期間]

2009年4月1日～2009年9月30日

株主の皆様へ



代表取締役社長

西本甲介

2010年3月期第2四半期累計連結業績は、減収・減益となりました。これは、世界同時不況が、当期初より、当社の主力事業である技術者派遣事業に影響してきたことが主因です。当期に入り、当社の主要顧客である日本の大手製造業各社の生産状況が少しずつ改善してきていますが、前期比では、依然として60%から80%の水準の企業がほとんどであり、技術開発投資予算も含めたコスト削減策の強化が継続しています。特に、四半期ごとの予算見直しの際に、さらなるコスト削減、あるいは事業の撤退・縮小を決定される顧客企業が多いのが実態でした。その結果、当期に入っても、平時以上の契約終了が断続的に続いているのが実状です。一方で、限られた受注を着実に成約に結びつける営業努力の結果、平時と比較して約90%の成約実績があるものの、成約件数以上の契約終了件数によって、当社稼働率の改善が、計画値に届きませんでした。グループ各社ともに同様の状況にありますが、唯一、メイテックCAE社(解析事業)が増収増益を達成いたしました。

また、技術者派遣事業において、稼働率低下に伴う未稼働社員を対象とした教育研修を実施するとともに、公的資金である雇用調整助成金を受給していることから、経常利益・当期純利益ベースでは、期初予想よりも改善を図ることができました。また、販売管理費の削減についても、期初計画以上の対応を行っています。

下期以降は、依然として顧客企業のコスト削減策は継続されるものの、一方で選択と集中による「攻めの技術開発投資」の動向も出始めておりますので、一件でも多くの成約実績を上げ、引き続き、全社一丸となつて一日も早く損益分岐点を超える状況に戻し、利益が出せる体質に戻すことを最大の課題として取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2009年11月

決算のポイント

連結の経営成績

当四半期連結累計期間（6ヶ月間：2009年4月1日～2009年9月30日）については、主要顧客である大手製造業の生産状況等で一部改善が見られるものの、技術開発投資予算も含めたコスト削減策の強化が継続しており、事業環境は依然厳しい状況にあります。

かかる状況下、当社グループの中核事業である技術者派遣事業における期初からの稼働率の低迷等を主に、当四半期累計期間の連結売上高は、前年同期比151億93百万円減収の262億3百万円となりました。

連結売上原価については、派遣事業での労務費の減少等を主に、前年同期比59億51百万円減少の234億78百万円、連結販管費は未稼働技術者への教育訓練に伴う費用による増加影響を受けつつも、技術者の採用関連費用の抑制等により前年同期比6億18百万円減少の59億73百万円となりました。この結果、連結営業損失は32億48百万円となりました。

また、多数のエンジニアを常時雇用する当社グループでは、雇用調整助成金の受給を申請しており、営業外収益として24億7百万円の助成金収入を計上し、連結経常損失は8億50百万円、連結四半期純損失は12億14百万円となりました。

事業セグメント別の経営成績

〔派遣事業〕

連結売上高の9割超を占める派遣事業、特に中核事業の技術者派遣事業については、技術者の契約開始数が営業努力等により向上しつつあるものの、主要顧客である大手製造業の技術開発投資予算も含めたコスト削減等の影響を受けて、期初より稼働率の低迷を余儀なくされました。

これら稼働率の低迷等を主因として、派遣事業における当四半期累計期間の売上高は、前年同期比138億52百万円減収の246億10百万円となりました。

営業損益は、労務費を中心とする原価の低減や、採用関連費用を中心とする販管費の抑制を図りましたが、売上高の減収影響を補いきれず、29億2百万円の損失となりました。

このように、厳しい事業環境が継続していますが、市場動向に則した拠点統廃合や営業力強化を図り、主要顧客の大手製造業における「攻めの技術開発投資」の動向を的確に捉え、早期の稼働率の改善・向上に努めてまいります。

〔エンジニアリングソリューション事業〕

エンジニアリングソリューション事業は、解析関連技術、プリント基板及び試作・金型製作・成型関連の技術サービス事業等の技術支援事業を行っています。

エンジニアリングソリューション事業における当四半期累計期間の売上高は、前年同期比5億20百万円減収の12億19百万円、営業利益は前年同期比73百万円減益の12百万円となりました。

解析関連技術サービスを行う株式会社メイテックCAEは、サービス内容の拡充や営業強化等が功を奏し、増収増益となりました。

一方、プリント基板事業を行うアポロ技研グループは市況悪化に伴い、減収減益、営業損失となりました。

〔グローバル事業〕

グローバル事業は、主にブリッジエンジニア事業（中国の研修事業拠点で育成した中国人エンジニアを日本に招聘し派遣する事業）と中国での教育事業及び人材紹介事業を行っています。

グローバル事業における当四半期累計期間の売上高は、前年同期比2億89百万円減収の3億43百万円、営業損益はブリッジエンジニアの配属に時間を要していることを主因に3億82百万円の損失となりました。

〔キャリアサポート事業〕

キャリアサポート事業は、主にエンジニアに特化した職業紹介事業及び情報ポータルサイト事業を行っています。

キャリアサポート事業の当四半期累計期間の売上高は、2009年5月1日に日本ドレーク・ビーム・モリン株式会社の再就職支援事業をテンプスタッフ株式会社に譲渡した影響等により、前年同期比6億84百万円減収の3億50百万円、営業利益は前年同期比48百万円増益の15百万円と黒字に転換しました。

中核事業の技術者派遣事業の実績を活かしたエンジニア特化型の職業紹介事業を行う株式会社メイテックネクストは市況悪化で厳しい環境下において営業損失を計上しましたが、赤字額は前期比で縮小しています。

通期業績予想

中核事業の技術者派遣事業における足元の稼働率動向等を勘案し、2010年3月期の通期業績予想を下記の通りにいたします。

多数のエンジニアを常時雇用する当社グループでは、雇用調整助成金の受給を申請しているため、今回の業績予想には現時点での受給見込み金額を織り込んでいます。

なお、現在は従前とは比較できないほど、景況の先行きを見込むことが難しい状況にあるため、今後において、業績予想の修正を行う可能性が例年以上に高い水準で存在することを予めご承知おきください。

連結業績予想（2009年4月1日～2010年3月31日）

売上高	51,000百万円
営業利益	▲7,600百万円
経常利益	▲2,600百万円
当期純利益	▲2,500百万円
1株当たり当期純利益	▲75.41円

配当予想

基準日	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期末	年間
2009年 3月期		47円00銭		28円00銭	75円00銭
2010年 3月期		実績 24円50銭		予想 0円00銭	24円50銭

四半期連結財務諸表(要旨)

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

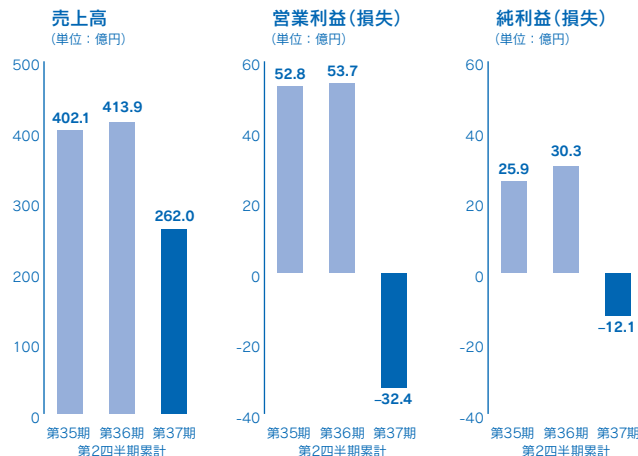
科目	当第2四半期 連結会計期末 (2009年9月30日)	前連結会計年度末 に係る 要約連結貸借対照表 (2009年3月31日)
資産の部		
流動資産	27,391	33,295
現金及び預金	14,851	18,526
受取手形及び売掛金	8,016	10,985
その他	4,528	3,797
貸倒引当金	▲4	▲13
固定資産	19,823	20,934
有形固定資産	12,390	12,818
無形固定資産	2,985	3,487
投資その他の資産	4,446	4,628
資産合計	47,214	54,230
負債の部		
流動負債	5,762	11,026
支払手形及び買掛金	83	84
未払費用	4,879	7,000
未払法人税等	64	1,214
その他	736	2,727
固定負債	7,423	7,034
退職給付引当金	7,377	6,988
その他	45	46
負債合計	13,185	18,061
純資産の部		
株主資本	34,604	36,747
資本金	16,825	16,825
資本剰余金	14,451	14,451
利益剰余金	9,217	11,360
自己株式	▲5,891	▲5,891
評価・換算差額等	▲849	▲883
少数株主持分	274	305
純資産合計	34,028	36,169
負債純資産合計	47,214	54,230

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 自2009年4月1日 至2009年9月30日	前第2四半期 連結累計期間 自2008年4月1日 至2008年9月30日
売上高	26,203	41,396
売上原価	23,478	29,429
売上総利益	2,724	11,966
販売費及び一般管理費	5,973	6,591
営業利益(▲損失)	▲3,248	5,375
営業外収益	2,456	42
うち助成金収入	2,407	—
営業外費用	58	21
経常利益(▲損失)	▲850	5,395
特別利益	26	10
特別損失	26	60
税金等調整前四半期純利益(▲損失)	▲850	5,345
法人税等	383	2,280
少数株主利益(▲損失)	▲19	25
四半期純利益(▲損失)	▲1,214	3,039

過去3期の第2四半期累計期間経営成績の推移



株式情報 (2009年9月30日現在)

株式概要

証券コード	9744
上場市場*	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部
1単元の株式数	100株
会社が発行する株式の総数	142,854,400株
発行済株式数	35,100,000株
株主数	7,354名

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 / 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料) 東京証券取引所、名古屋証券取引所 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.meitec.co.jp (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他 やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に 公告いたします。)
上場証券取引所* 公告の方法	

*名古屋証券取引所につきましては、2009年10月28日上場廃止の申請を行いました。

IRホームページ

<http://www.meitec.co.jp/ir>

今回のIRレポートにつきましては、環境保全などにかんがみ、簡素に要旨をまとめた冊子といたしましたが、Web上にて投資家の皆様へ充実した情報開示をいたしておりますので併せてご覧ください。

株式会社メイテック

〒107-0052
東京都港区赤坂8丁目5番26号 赤坂DSビル
電話 (03) 5413-2600 FAX (03) 5413-2610
ホームページ <http://www.meitec.co.jp>

会社情報 (2009年9月30日現在)

会社概要

会社名	株式会社メイテック
設立年月	1974年7月
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目5番26号 赤坂DSビル
東京本社	〒451-0075 名古屋市中区康生通2丁目20番地1
名古屋本社 (登記上の本店)	168億25百万円
資本金	8,842名(連結)
従業員数	格付投資情報センター (R&I) A-
格付け	

役員

取締役及び監査役

代表取締役社長	西本 甲介
取締役	福田 完次
取締役	國分 秀世
取締役	米田 洋
取締役	中島 清雅
取締役	上村 正人
社外取締役	眞水 潔
常勤監査役	高峰 由則
社外監査役	齋藤 雅俊
社外監査役	渡部 博

執行役員

最高責任者 CEO 兼COO	西本 甲介
執行役員	國分 秀世
執行役員	中島 清雅
執行役員	上村 正人
執行役員	永坂 英宣
執行役員	柳沢 智
執行役員	小笠原昭喜
執行役員	中川 弘市
執行役員	寒川 淳